

道徳の授業づくり【中学校】②(授業づくりの手順)

出前講座（中学校）

**「考え、議論する」道徳の
授業づくり**

島根県教育センター

講座の流れ（約100分）

- 1 道徳科について（約15分）
- 2 授業づくりの手順（約20分）
- 3 演習「授業づくり」（約65分）

続いて、「考え、議論する」道徳の授業づくりの手順についてです。

道徳科の授業づくりで大切なこと

道徳科のねらい(道徳的価値)を踏まえ、道徳科の授業で児童生徒に、
どのようなことを考えてほしいのか、
どのようなことに気付いてほしいのかを明確にすること！

道徳科の目標を達成させるために「道徳科」の授業づくりで大切にすべきことは、

★教師が、道徳科のねらいを踏まえ、道徳科の授業で生徒に「どのようなことを考えてほしいのか、どのようなことに気付いてほしいのかを明確にする」こと！です。

『道徳授業づくりシート』

道徳授業づくりシート (広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編)

教科名、単元: _____ 学期: _____

本時の内容課題の抽出: _____

内容課題の分析・整理 (一瞬に考えたいポイント): _____

内容課題に基く授業活動の種類: _____

期待する授業活動の効果: _____

★次山の三層モデル (嵯峨大 藤田生教授考案)

教材

登場人物が感じたこと
や考えたこと

道徳的価値について
の考え方や生き方、
信義

1. 道徳的に実践した登場人物の言動、行動。

(A) _____

(B) _____

2. 「A」が、周囲をどう見て、どう思ったか、「思い」をどう述べているか。

(C) _____

3. 実践「A」から読み取れること。

4. 道徳的価値について

本時のねらいを明確にしなさい。

○授業構想

ねらいにそなわせたものの学習展開、教材の処理

授業活動の手型せられる多様な反応

↓

思い込しの発現

↓

予想される多様な反応

↓

↓

↓

本時のねらい

※本時にあたる一帯の能力から多面的・多角的な能力へつなげる思い込しの発現例

- 登場人物の言葉、態度、行動の発現 「どうして手を振ったのかな。」
- 登場人物の言葉、態度、行動の発現 「どうして、どうなるかありますか。」
- 登場人物の経験や思い、言葉の発現し発現する発現 「物も感じような経験がありますか。」
- 登場人物の態度や思いの発現 「どうして、誰にでもそうしですか。」
- 登場人物の態度や思いの発現 「その場で経験がどうですか。」
- その他 「～は、どんな気持ちで、どうの。」
- 「～は、どうして、どう思っていますか。」

※道徳授業に基く学習活動の在り方に関する専門的知識 (著: 吉田) における嵯峨大大学院 藤田生教授の転記資料より

島根県教育センター (令和2年3月版)

生徒に「どのようなことを考えてほしいのか、どのようなことに気付いてほしいのかを明確にする」ために使っていただきたいのが「道徳授業づくりシート」です。

このあとに、この「シート」を用いた演習をしますので、まずはこの「シート」の使い方について説明します。

『道徳授業づくりシート』の使い方

**道徳授業
づくりシート
の使い方**

**指導の明確な意図①
道徳的価値**
●ねらいや指導内容について、学習指導要領に基づき、教師の捉え方を明確にしましょう。

**指導の明確な意図②
児童生徒の実態**
●ねらいや指導内容に関連する児童や生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にしましょう。

**指導の明確な意図③
教材の活用**
●道徳的価値の自覚を深めていくために、使用する教材の特質やそれを生かす手掛かりを明確にしましょう。

道徳科の授業づくりで大切にしたいこと
道徳科の授業において、子どもたちに
**どのようなことを考えてほしいのか、
どのようなことに気付いてほしいのか**
を明らかにすること

おおよそ の順番にメモをしていくことで、本時のねらいが明確になります。さらに、ねらいに基づいた中心発問を設定することができ、「考え、議論する道徳」の授業が構想できるようになるシートです。

本時のねらい
●「指導の明確な意図」をもつことによって見えてきた「道徳的価値レベル」と「児童生徒の実態」をもとに、「本時のねらい」を設定しましょう。

中心発問
●児童生徒が「考え、議論する」ための中心的な場面となります。
●中心発問に対する「予想される児童生徒の反応」、さらに考えを深めるための「問い返しの発問」を準備することにより、発問する教材の場面や発問の文言を検討しましょう。

「道徳的価値レベル」の教材分析
●「道徳的価値についての考え方や生き方、信念」＝「道徳的価値レベル」を検討し、教材分析を深めていきましょう。

問い返しの発問
●児童生徒の一面の見方から多面的・多角的な見方につなげる問い返しの発問例を載せています。

島根県教育センターのホームページにアップしている、このリーフレットには 『道徳授業づくりシート』 の使い方をまとめています。これから行う演習の際には、このリーフレットも参考にしながら進めていただきたいと思います。

授業構想の手順

- 1 主題名の検討
- 2 指導の「明確な意図」をもつ
 - ①道徳的価値
 - ②児童生徒の実態
 - ③教材の活用
- 3 本時のねらいの設定
- 4 学習指導過程の構想

明確な意図

生徒に「どのようなことを考えてほしいのか、どのようなことに気付いてほしいのか」を明らかにするためには、このような手順で授業を構想するとよいと考えています。

★まずは「主題名」を検討します。これは、道徳の授業でねらう道徳的価値がぶれないようにするためにも大切な作業です。

★次に指導の「明確な意図」をもつことが欠かせません。

★指導の「明確な意図」をもつことによって「本時のねらい」が設定できます。

これらの準備が整えば、だんだんと学習指導過程が見えてきます。

教材

「二通の手紙」

私たちの道徳（中学校） p140～

8

本講座では、『私たちの道徳（中学校）』に掲載されている「二通の手紙」の授業づくりを行います。

実際に「道徳授業づくりシート」を用いて、チームで「考え、議論する」道徳の授業をつくっていただきます。

この後の演習でもじっくりと読んでいただきたいと思います。まずはあらすじを確認します。

「二通の手紙」



『私たちの道徳 中学校』（文部科学省）p141

9

「二通の手紙」はこのようなお話です。

元さんは定年までの数十年、動物園で働いていました。

退職後も勤勉さと真面目さがかわれて引き続き動物園で働いていました。

★ある日のこと、入園終了時間が過ぎて入り口を閉めようとしていると、毎日終了間際に来ていた小学校三年生くらいの女の子が、三、四歳の弟の手を引いて現れます。

「おじちゃん、お願いします。」「もう終わりだよ。それにここは、小さい子はおうちの人と一緒にないと入れないんだよ。」

元さんは一度断るが、女の子の「今日は弟の誕生日だから・・・キリンさんやゾウさんを見せてやりたかったのに・・・。」という言葉に対して、

「よし、じゃあ、おじさんが特別に中に入れてあげよう。」と、元さんは入園時間を過ぎているのに二人の入園を許可します。

「二通の手紙」

『私たちの道徳 中学校』（文部科学省）p142

10

閉門十五分前の園内アナウンスが流れます。
閉門時刻の五時、誰も出てくる気配がありません。
園内職員を挙げて一斉に二人の子供の搜索が始まります。

一時間経ち、うっすらと辺りが暮れかかった頃、机の上の電話のベルが鳴ります。

二人は、園内の雑木林の中の小さな池で、遊んでいたところを無事に発見されます。

「二通の手紙」

前略

突然のお手紙で驚かれますことと思います。お詳しくない、私は、先日お二人の動物園でお世話になりました二人の子供の母親でございます。その節は、皆様は大変な御迷惑をかけてしまいましたことを心よりお詫言ひ申し上げます。この成り行きの一部始終を知り、私の親としての不甲斐なさを反省させられるばかりです。

実は、主人が今年に入って病気で倒れてから、私が働きに出るようになったのです。その間、お二人は、いつも私の膝を預かって育ててくれたことが多くありました。弟の面倒を見ながら待つて、いる幼い娘の姿を想像すると、どんなに大変だったか、寂しかったか、今更ながらに胸が痛みます。そんな折りに、子供が聞いたのが動物園の話でした。今度連れて行ってあげると言っではいるものの、仕事の関係上、そんなお話を立ない日々です。

よほど中に入れたかったのではありません。弟の誕生日だったあの日、娘は自分で時々お小遣いで、どうしても中に入れて見せてやれたかったのだと思います。

そんな子供の心を察して、中に入れてくださった温かいお気持ちに心から感謝いたします。自分たちの不始末は、子供ながらも分かっていたようでした。けれども、あの晩の二人はしやきょうは、長い間この家で見守ってくださったお父さん、お母さん、あの子たちの夢を大切に思ってくらり、私たちが親子にひとときの幸福を手立てくださったあなた様のご恩は、一生忘れません、いっせいでしよう。

本当にありがとうございます。

かしこ

『私たちの道徳 中学校』（文部科学省）p143

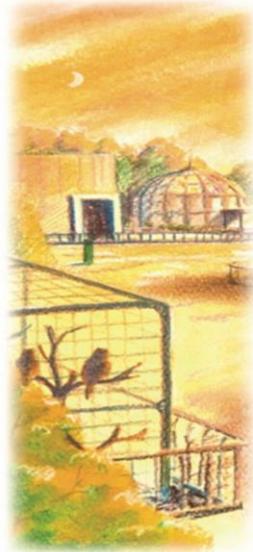
11

数日後、事務所の元さん宛てに二人の子供の母親から一通の手紙が届きます。

そこには、「弟の誕生日だったあの日、娘はどうしても中に入れて見せてやりたかったのだと思います。そんな子供の心を察して、中に入れてくださったあたたかい気持ちに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。」と書かれていました。

ところが、元さんは上司から呼び出され、「懲戒処分」の通告というもう一通の手紙を渡されました。

「二通の手紙」



『私たちの道徳 中学校』（文部科学省）p144

12

元さんは二通の手紙を机の上に並べて、見比べながら言います。

「子どもたちに何事もなくよかった。私の無責任な判断で、万が一事故にでもなっていたらと思うと……。この年になって初めて考えさせられることばかりです。この二通の手紙のお陰ですよ。」

そう言う元さんは、晴れ晴れとした顔で身のまわりを片付け始めます。

その日をもって元さんは自ら辞職し、この職場を去っていきました。というお話です。

1 主題名の検討

C 主として集団や社会との関わりに関すること

10 遵法精神、公德心

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

主題名

法やきまりを守り、
規律ある社会を実現する

道徳的価値について
の考え方や生き方。

● 法やきまりを守り、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。
● 法やきまりを守り、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。
● 法やきまりを守り、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』p44

13

主題名は『学習指導要領解説「特別の教科道徳編」』に記載されている内容項目を参考にして、短くわかりやすい言葉で設定します。

★44ページには、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」と書かれています。

★『二通の手紙』においては、例えば「法やきまりを守り、規律ある社会を実現する」のように設定できます。

2 「明確な意図」をもつ

①ねらいや指導内容について、学習指導要領に基づき、教師の捉え方を明確にする。

道徳的
価値

②ねらいや指導内容に関連する児童や生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にする。

児童
生徒の
実態

③使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする。
(道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かり)

教材の
活用

次に、「本時のねらい」のを検討するために、指導の「明確な意図」をもつ作業を行います。

「本時のねらい」を明らかにするために欠かせない、教師の「明確な意図」とは、

★①ねらいや指導内容について、学習指導要領に基づき、教師の捉え方を明確にする。・・・という「道徳的価値」にかかわる明確な意図。

★②ねらいや指導内容に関連する児童や生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にする。・・・という「児童生徒の実態」にかかわる明確な意図。

★③使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする。・・・という「教材の活用」にかかわる明確な意図。

の3つです。

これらを検討することで、道徳科の授業において、子どもたちに「どのようなことを考えてほしいのか、どのようなことに気付いてほしいのか」が明確になり、「本時のねらい」を設定することができるようになります。

(1) 内容項目の概要

社会があれば何らかのきまりがある。法（法律）は国会が定めるきまりであり、例えば、財産や家族などに関わる一般的なルールである民法、犯罪とそれに対する刑罰を定めた刑法などがある。人間が集まって社会が形成されると、「私」と「私」の利益がぶつかり合って集団のまとまりがなくなり、結局一人一人の願いが実現できないことがある。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであることや、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することは大切である。最も基本的な自由である身体の自由にしても、身体を維持するための衣食住にしても、それらを所有することを社会が承認していることによって支えられている。無法状態になれば、自由は保障されない。自分の欲望のままに生活することを制限するものとして法を捉え、仕方なく法に従うのは、進んで守るということではない。

遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである。一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。法やきまりについては、その遵守とともに、一人一人が当事者として関心をもつことが大切であり、適正な手続を経てこれらを変えることも含め、その在り方について考えることが必要である。また、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとは、互いの権利の主張が調和し両立できるようにすることである。自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。義務とは、ここでは人に課せられる法的拘束であり、自分の好き嫌いにに関わりなくすべきことである。

これは、44ページに記載されている内容です。

★ここには、「C-10 遵法精神、公德心」に関する内容項目の概要が説明してあります。

授業づくりシート(道徳的価値)

本時の 内容項目の見出し	C-10 遵法精神、公德心
内容項目の 分析・理解	<p>○「法やきまり」は、集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするためのもの。</p> <p>○社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障される。</p> <p>○自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。</p>

18

例えば・・・

本時の内容項目の見出しが「C-10 遵法精神、公德心」であれば、内容項目を「○「法やきまり」は、集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするためのもの。

○社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障される。

○自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。」のように分析することができます。

授業づくりシート(児童生徒の実態)

内容項目に係る児童生徒の実態	期待する児童生徒の考え
<ul style="list-style-type: none"> ○法やきまりに従えばそれでよいと考えている。 ○「ルールだから守る」と他律的に捉えている。 ●法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発する。 ●自分の権利は強く主張するものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○法やきまりは、自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、遵守することは大切である。 ○自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、規律ある安定した社会が実現できる。

20

児童生徒の実態の左側には「内容項目にかかわる生徒の実態」を記入します。

右側には、道徳の時間を通して「期待する生徒の考え」を記入します。

★例えば・・・左側の欄には

○法やきまりに従えばそれでよいと考え、「ルールだから守る」と法やきまりを他律的に捉えている生徒が多い。

○法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、自分の権利は強く主張するものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにしたりする傾向も見られる。

★右側の欄には、

○法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することは大切であるという考え。

○自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、規律ある安定した社会が実現できるという考え。

など、内容項目の分析によって明らかになった道徳的価値に基づいた「授業において期待する生徒の考え」を記入します。

(2) 指導の要点

小学校の段階では、特に高学年で、法やまりの意義や権利を大切にし、義務を果たすことの意義について学んできている。

中学校の段階でも、入学して間もない時期には、法やまりに従えばそれだけでよいと考え、「ルールだから守る」と法やまりを他律的に捉えている生徒が多い。学年が上がるにつれて、社会の中で生きているという自覚も深まり、法やまりについてその意義を一層理解することができるようになる反面、法やまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、自分の権利は強く主張するもの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにしたりする傾向も見られる。

指導に当たっては、まず、法やまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められる。自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解した上で、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付ける指導が必要である。その際、法やまりを守ることは、自分勝手に放縱な反発等に対してそれらを許さないという意思をもつことと表裏の関係にある。

さらに、法やまりの他律的な捉え方を越えて、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるようになるため、遵法精神には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気付かせる指導が求められる。また、高等学校段階への発展を踏まえて、自分たちを拘束すると感じる法やまりが自分たちを守るだけでなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせ、よりよいものに変えていこうとするなど積極的に法やまりに関わろうとする意欲や態度を育てるとともに、権利と義務の関係について、例えば法的に強制力のない義務を果たすことが理性的な人間としての生き方につながることを考えさせるなど、公徳心に関わる道徳性を意識した指導の工夫が必要である。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「私」を大切にすることと「公」を大切にすることの心について考えを深めさせることが望まれる。

これは、45ページに記載されている内容です。

★ここには、中学校段階の一般的な傾向が示してあります。

また、指導に当たって大切にすることが明記されています。

この部分を手掛かりにすると内容項目に係る「生徒の実態」をとらえやすくなります。

授業づくりシート(教材の活用)

道徳授業づくりシート (広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改題)

教科名・学年: 単元名:

本時の内容項目の抽出:

内容項目の分析・整理
(一線に書きだすポイント)

内容項目に基く授業生成の過程

既習する授業生成の過程

★水山の三層モデル
(徳大大学 熊谷生教授考案)

教材

登場人物が感じたこと
や考えたこと

道徳的価値についての
考え方や生き方、
信息

教材の活用

① 道徳的に重要な登場人物は、誰か。

(A)

(B)

② 「A」が、登場人物です。どのような「動機」を持ってあるか。

(A)

(B)

③ 登場人物の「動機」を整理しよう。

④ 登場人物の「動機」を整理しよう。

⑤ 登場人物の「動機」を整理しよう。

⑥ 登場人物の「動機」を整理しよう。

⑦ 登場人物の「動機」を整理しよう。

⑧ 登場人物の「動機」を整理しよう。

⑨ 登場人物の「動機」を整理しよう。

⑩ 登場人物の「動機」を整理しよう。

本時のねらいを明確にしましょう。

○授業構想

お話しをまとめるための心の整理・整理の場

授業生成の学習される多様な反応

問い返しの時間

学習される多様な反応

本時のねらい

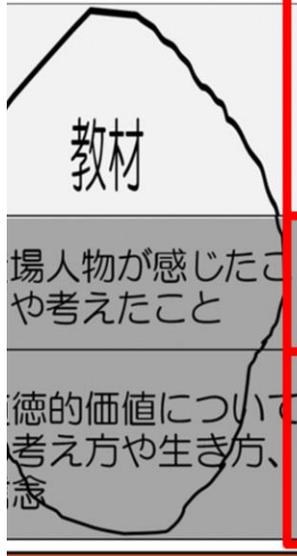
① 道徳的に重要な登場人物の「動機」を整理しよう。
② 登場人物の「動機」を整理しよう。
③ 登場人物の「動機」を整理しよう。
④ 登場人物の「動機」を整理しよう。
⑤ 登場人物の「動機」を整理しよう。
⑥ 登場人物の「動機」を整理しよう。
⑦ 登場人物の「動機」を整理しよう。
⑧ 登場人物の「動機」を整理しよう。
⑨ 登場人物の「動機」を整理しよう。
⑩ 登場人物の「動機」を整理しよう。

◎道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門学識(第2回) における徳大大学大学院 熊谷生教授の配付資料より
 高橋英教育センター (令和2年3月版)

次に、「教材の活用」について明確にしていきます。
これは、「教材分析」とも言われます。

授業づくりシート(教材の活用)

★氷山の三層モデル
 央大学 島恒生教授考案)



① 道徳的に変容した登場人物は、誰か。 (A)	② (A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。 (B)
③ (A) が変容を遂げて、どうなったか。(教材に書いてある様子) (C)	
読解レベル (教材から読み取れること) 読解レベル	
道徳的価値レベル 道徳的価値レベル	

まず、① 道徳的に変容した登場人物は、誰か。
 次に、② この登場人物が変容するきっかけになった出来事は、何か。
 そして、③ 登場人物が変容を遂げて、どうなったのか？を明確にしていきます。
 ★この教材分析をもとに「教材から読み取れること」を記入します。これを「読解レベル」の教材分析とっています。
 ★そして、さらに「道徳的価値レベル」の教材分析を行い、記入します。

授業づくりシート(教材の活用)

★氷山の三層モデル (畿央大学 島恒生教授考案)	
	① 道徳的に変容した登場人物は、誰か。 (A) 加奈子
	② (A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。 (B) 「匿名だからこそ、あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を想像してみてください。」の言葉
	③ (A) が変容を遂げて、どうなったか。(教材に書いてある様子) (C) すごいことを発見した
登場人物が感じたことや考えたこと	読解レベル(教材から読み取れること) 相手の気持ちを考えて行動すること
道徳的価値についての考え方や生き方、信念	道徳的価値レベル 互いの立場を尊重し、広い視野に立って行動すること。自分を成長させることができる。

24

これは、畿央大学の島つねお教授が考案された「氷山の三層モデル」に基づいたものです。

★教材という氷山の下にある「登場人物が感じたことや考えたこと」＝「読解レベル」を記入します。

★そして、さらにその下に潜んでいる「道徳的価値についての考え方や生き方、信念」＝「道徳的価値レベル」を記入し、教材分析を深めていきます。

この「道徳的価値レベル」は、教材を通して「児童生徒に考えさせたい道徳的価値」ですから、直接「本時のねらい」につながります。

授業づくりシート(教材の活用)

道徳的価値レベル

誰もの安心・安全を守るためには、規則を遵守することが大切であり、自らの義務を果たすことで、誰もが安全に生活できる社会にすることができる。

例えば、

「誰もの安心・安全を守るためには、規則を遵守することが大切であり、自らの義務を果たすことで、誰もが安全に生活できる社会にすることができる。」

のように道徳的価値レベルをとらえることができます。

3 ねらいの検討

どのような学習をする
のかが分かるように

安心・安全に暮らすために法やき
まりがあることに気付き、自らの義
務を果たし秩序と規律のある社会を
実現しようとする態度を育てる。

<道徳的価値>
※内容項目より

<道徳性の諸様相>
判断力・心情
実践意欲・態度

26

次に、ねらいを検討します。ねらいは、どのような学習にするのかが分かるようにすることが大切です。

例えば・・・

安心・安全に暮らすために法やきまりがあることに気付き、自らの義務を果たし秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。のようなねらいが設定できます。

★ねらいの前段（青色）の部分は、先ほどの『学習指導要領解説「特別の教科道徳編」』に記載されている内容項目を参考にして設定します。

★最後の（赤色）部分は、道徳性の諸様相の4つ「判断力」「心情」「実践意欲」「態度」の中から選んで設定します。

4 学習指導過程の構想

①中心発問を考える

- 考え、議論させる場面
※中心発問自体であったり中心発問前後であったりと、
場合によって異なる
- 中心発問に対する「予想される児童生徒の反応」
- 考えを深めさせるための問い返しの準備

②中心発問に迫るための補助発問（準備発問）

③導入を考える

④終末を考える

<指導の工夫>

発問構成 劇的な表現活動 資料提示 話し合い 座席配置
板書の工夫 人材活用 ワークシートの活用 など

これまでの準備ができれば、中心発問が見えてきます。

場合によって異なりますが、多くの場合は、この「中心発問」について生徒が考える場面が、「考え、議論する場面」になります。

※中心発問を子どもたちに問いかけることで、他者の考えを聞き、多様な考え方、感じ方と出会い交流する場をつくり出すことができ、さらには「子どもたちが自らの考え方や感じ方をより深める」ことができる時間になります。

こんな時間を子どもたちが共有し、子どもの一人一人がじっくりと考えることができるような中心発問を検討してみてください。

授業づくりシート

道徳授業づくりシート (広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編)

教材の活用方法、主題

本時の内容項目の抽出

内容項目の分類・整理
(一層に集めたいポイント)

内容項目に基く児童生徒の発問 期待する児童生徒の反応

★秋山の三層モデル (秋山大学 藤野正樹教授)

教材

登場人物が感じたことや考えたこと

道徳的価値についての考え方や生き方、信念

1. 道徳的に重要な登場人物を挙げる。(A)

2. (A)の発言する場面の内容を要約する。(B)

3. (A)が、発言を通じて、何を思ったか、(教材)を通じて何を思ったか。(C)

4. (B)と(C)を照らし合わせ、(教材)の価値を明らかにする。(D)

道徳的価値の抽出

本時のねらいを記述してください。

中心発問

予想される児童生徒の反応

問い返しの発問

本時のねらい

広島県立教育センター (令和元年 11 月版)

31

「中心発問」が、設定できたら、今度は「より本時のねらいに迫るための展開」を構想します。

★まず、「中心発問」に対する「予想される生徒の反応」を記入します。生徒がもっているそれぞれの価値に応じた反応を検討するとよいでしょう。

次に、生徒の考えを深めるための「問い返しの発問」を準備します。

この「問い返しの発問」は、生徒の一面的な見方を多面的・多角的な見方へとつなげる発問です。

発問例を「授業づくりシート」の右下に載せていますので、参考にさせていただきます。

これらの発問をして、生徒の発言をコーディネートしながら「本時のねらい」に迫っていくようにします。

4 学習指導過程の構想

①中心発問を考える

- ・ 考え、議論させる場面
※中心発問自体であったり中心発問前後であったりと、
場合によって異なる
- ・ 中心発問に対する「予想される児童生徒の反応」
- ・ 考えを深めさせるための問い返しの準備

②中心発問に迫るための補助発問（準備発問）

③導入を考える

④終末を考える

<指導の工夫>

発問構成 劇的な表現活動 資料提示 話し合い 座席配置
板書の工夫 人材活用 ワークシートの活用 など

32

このように、まずは①中心発問を考えることから学習指導過程の構想を行うとよいでしょう。そのために、ぜひ「道徳授業づくりシート」を活用していただきたいと思います。

「道徳授業づくりシート」で構想できるのはここまでですが、この後に、

★②中心発問に迫るための補助発問（準備発問）

③導入

④終末

を考え、道徳の授業をつくり上げていきます。

導入 課題意識を高める。

「あれ？」 「もっと考えたい！」

**展開 道徳的諸価値についての理解
&
自分事として、多面的・多角的に考える**

終末

よりよく生きるために、明日への実践意欲をもつ

「こうなりたいなあ」「これって、いいなあ」

33

これは、道徳の基本的な学習指導過程です。

導入で、課題意識を高め、

展開で、道徳的諸価値についての理解を深め、自分事として多面的・多角的に考えます。

そして、終末で、よりよく生きるために、明日への実践意欲がもてるように学習を展開していきます。

「授業づくりシート」を活用していただき、子どもたちが「こうなりたいなあ」「これっていいなあ」と思える道徳の授業をたくさん実践していただきたいと思っています。

「2 授業づくりの手順」は以上です。

「3 授業づくりの演習」は、「道徳の授業づくり【中学校】③」をご覧ください。